

# 令和6年度 第18回土木技術講習会

## 『新技術・新工法の取り組み』

日時：令和6年10月28(月) 9:20～16:20 (受付：9:00～)

場所：東部会場 くにびきメッセ 多目的ホール (松江市学園南1丁目2-1)

西部会場 浜田建設会館 3F 大会議室 (浜田市原井町908番地28) リモート

隠岐会場 隠岐建設会館 会議室 (隠岐の島町西町名田の四34-1) リモート

主催：(公財) 島根県建設技術センター

後援：島根県土木施工管理技士会

講師：参加各社

### スケジュール及び内容

時間	項目	内容	講師
9:20 ～9:30	開会挨拶	開会挨拶および講師紹介	建設技術センター
9:30 ～10:20	【軽量盛土工法】 PCW工法 ～急傾斜地でも施工可能な『軽量盛土工法』～	<ul style="list-style-type: none"> <li>自立性の高いコンクリートパネルの壁面材、気泡混合軽量盛土を使用し、鉄筋挿入工により地山との一体化を図った軽量盛土工。</li> <li>直壁構造による道路構築（道路新設および拡幅工事）、急峻な地形箇所における道路拡幅、被災道路の道路改修、地すべりや軽量の盛土が必要とされる場合の道路構築に適用できる。</li> </ul>	PCW工法研究会 本部 事務局 中村 公徳 氏
10:30 ～11:20	【地盤改良工法】 真空圧密ドレーン工法	<ul style="list-style-type: none"> <li>本工法は、地盤改良工法の圧密・排水工法に分類され、PVD工法と同じ改良原理に分類される。</li> <li>軟弱地盤にキャップ付きドレーンを打設し、排水ホースと集水管を通して負圧（真空）を作用させると粘土とドレーン内との間に動水勾配が生じることで、粘性土中の間隙水をドレーン内に誘導して上部へと排すのが本工法の改良原理。</li> </ul>	錦城護謨株式会社 土木事業本部 技術部次長 山内 義文 氏
11:30 ～12:20	【軽量盛土工法】 FCB（気泡混合軽量盛土）工法 ～FEM解析による地震時挙動と構造物への影響～	FCB工法はこれまで、巨大地震被災地においてFCB自体の変状やFCBが構造物に悪影響を与えたことは無かったが、学術的なアプローチによる検証はなされていなかった。今回、FCB盛土を含む全体地盤に地震動を与え、FEM解析を行うことにより、FCB自身の変状やFCBが周辺構造物に悪影響を与えるものではないことが明らかになった。	麻生フオームクリート株式会社 事業推進部 前野 英昭 氏
12:20 ～13:20	昼食休憩（展示パネル等自由見学）		
13:20 ～14:10	【補修技術】 「カルサプリア」 & 「リアクトライズ」 ～カルシウム補助剤併用 けい酸塩系表面含浸材～	コンクリート改質効果を高める補助剤併用の表面含浸剤について紹介する。 本技術はカルシウム補助剤併用の表面含浸剤で、従来はエポキシ樹脂等による表面被覆工法で対応していた。本技術の活用により大幅なコストダウン及び工程の削減が図れる。 併せて、撥水作用を付与したオールインワンのコンクリート表面含浸材「リアクトライズ+撥水」についても紹介する。	馬居化成工業株式会社 開発部 副部長 浅野 達夫 氏
14:20 ～15:10	【補修技術他】 ①亜硝酸リチウム内部圧入工法 ②K-PREX工法 ③グリパック	<ol style="list-style-type: none"> <li>①塩害・中性化・ASRにより劣化したコンクリート構造物を治療する補修技術。コンクリートに小径の圧入孔を削孔し、そこから浸透拡散型亜硝酸リチウムを内部圧入することで鉄筋腐食抑制効果、ASR膨張抑制効果を付与できる。</li> <li>②本工法は、既設コンクリート構造物部材にコトドルで削孔した後、最深部を特殊削孔機で円錐状に拡径削孔し、グリッパを設けた緊張材を配置し、これにプレストレスを導入することで、既設部材および増設部材を内部から補強する技術。</li> <li>③本工法は、コンクリート二次製品（グリパック）を縦横に積み上げ、縦横方向に連続一体化した面構造として土圧に抵抗する空積擁壁。場所打ちコンクリートが不要で、省力化、工期短縮が可能。</li> </ol>	極東興和株式会社 営業本部 補修営業課長 稲富 芳寿 氏
15:20 ～16:10	【仮設工法】 GEOTETS工法 (土留部材引抜同時充填工法)	環境に配慮した仮設工法として、鋼矢板等の鋼製土留杭(以下土留杭)を周辺地盤の沈下を抑制しながら引き抜くことを可能とした工法。周辺家屋や道路等の地盤沈下防止、また、新設施設の安定確保で施設の長寿命化に貢献する。高規格道路や鉄道に近接した土留杭の引抜において、各管理者の基準(許容沈下量等)を満たした施工が可能となる。過去に道路下に存置された土留杭も引抜可能で、地下空間の有効活用や再整備時のコストダウンと工期短が図れる。	GEOTETS工法研究会 顧問 西 靖彦 氏
16:10 ～16:20	質疑応答・閉会	質疑応答	建設技術センター

※携行品：受講通知書(QRコード)、本人確認ができるもの(顔写真付き)、筆記用具

※昼食休憩のほかにも各講義間の休憩時間に展示パネル等の見学ができます